学習

げんじあきら

目次

教育という言葉がスキではない

教えを育む

しつけ

日本のガバナンスにおける教育

インターネットが教育の概念を変える

選抜になって
学習はコンセプトとお手本とモノ

教え育まれるものか

教育ではなく学習

学習のコンセプト

学習のモノ

学習のお手本
自己学習のチカラ

もともと自己学習できるのに

あかちゃんの自己学習を無にするもの

あかちゃんの自己学習のチカラを削がない方法

あかちゃん時期だけではない育つ自己学習のチカラ
自己学習のチカラが削がれるとどうなるか

偏差値競争

生活や生きる工夫の欠如

そもそもなぜ自己学習のチカラを失うのか

情報は追うものか来るものか

人生は与えられるものから脱する

地球のピンチから脱出を提示した人

動く歩道

教育ではなくて学習だろう

言葉は人を呪縛する

ロシアの教育が垣間見えてくる

徴用も教育だった

私は父親とは異なる

権力者はいなくても教育はある

学習に到達できるか

国民のあるべき姿

日本も自分の生き方を追う方向へ変わりつつある

奥付

教育という言葉がスキではない

教えを育む

私は教育という言葉を使わない。
多くの文章を書いているが、教育という言葉を使わない。
それがいいとかワルイとかを話しても仕方がない。
私がそうしているだけだ
テレビでも新聞でも、フツウのように教育という言葉を使う。
誰も疑問など感じていない。
もしかしたら私だけなのかもしれない。
だから、なぜかを述べないといけない。
教えを育みたい人がいることだ。
権力のガバナンスの中の言葉なのだ。
みんながどういう大人になってほしいかを権力を持っている人が考えるここ
とだ。
権力があるところには必ず教育という言葉がある。
会社でも、権力のガバナンスの強い会社では、教育という言葉が頻繁に出て
くるし、カリキュラムだってある。
もちろん大学なんかでは、当然のように、大学の教えを育もうとする。
そして日本国では、日本国の人として望ましい人になってほしいための、教
え育むがある。
家庭ではどのように教え育むかをいろいろな手段を使って広報する。
子どもが保育園や幼稚園に通うまでは、家庭の中でしつけと称する教育を奨
励しているのだ。

しつけ

おかしな話しなのだが、子どもは家庭でしつけないといけないことは、日本
のみんなに浸透している。

なぜだろう。

教育されているのだ。日本のみんなだ。

近所のおばさんにあいさつしなかったら、あそこはしつけができていないと、家がとやかく言われてしまう。

しかし、２０１９年の家が壊れて家族が個になっている状態では、あそこはしつけができてないと言われても困ったことになる。

もう２０１９年では集団の時代から個の時代に変わったのだ。

家に子どもの教育を押しつけたのは誰だろう。

参考になるのが、法律に、懲戒権が明示されていることだ。明治民法に定められている。

懲戒権は、家長が家をガバナンスするにあたりいわゆる体罰などを行うことを許すものだ。

どちらかというと、子どもの教育というより、国家のガバナンスの階層の１つと考えられていたのだろう。

当時の為政者は、日本国家を統治するのに、その最終の階層を家にした。最終段階の集団のことだ。

その上の集団の階層を、保育園や幼稚園にして、その上を小学校にして中学校にして高等学校にした。そして大学である。

その上の階層に会社や自治体の組織がある。

そして、権力者である。

明治民法では、明治政府が強力な権力を把握していた。

したがって、この懲戒権は、明治政府ためにあったと言ってもいいのだろう。

江戸時代に懲戒権なるものがあったかどうかわからない。

しかし、事実上、士農工商の士では、懲戒権のようなものがあったのだろう。

教育の話しなのだが、日本のガバナンスと大きく関わっている。

しつけも、懲戒権に守られて、家長の役割として、家庭内で行われていた。

まだ過去形ではない。現在進行形なのだ。２０１９年も家庭内の虐待が絶えないのだが、異口同音のようにしつけのために体罰を加えたと言ってしまう。

２０１９年になって、家庭内でおいて幼い子どもに体罰を加えてはいけないという法律施行が来年実行されそうである。
私は、しつけという言葉は死語にすべきと思っている。
私は、教育という言葉は使わない。これは、あまりにも大勢の人が使っているので、死語にすべきなどとはまだ言えない。
しかし、しつけは、懲戒権さえなくなったら、死語にすべきだと思う。
そもそもが、あかちゃんから子どもになるのに、みんな自分で自分の身体の中にあるプロフラムに従って育っていく。決して、母親や父親が育てているから育つわけではない。
母親や父親は、まだ自分で排泄処理できないから世話はしないといけない。おっぱいしか飲めないからお母さんのおっぱいや哺乳瓶を与える世話をしないといけない。まだ歩けないからだっこするとかバギーに乗せて移動する世話をしないといけない。
お母さんやお父さんは、育てるのではなくて世話をしているのだ。
それでいいと思う。
自分の育児が良くないとか、そんなことで悩むことは、思い上がりなのだろう。
しつけと言っているのは、実は、日本の子どもらしくとか、家系のこどもらしくとか、私の言うよろいを植え付けてしまうようなことだ。
おかしなことになっている。
そもそもは、為政者の意向で教育があり、しつけがある。
２０１９年には権力者や為政者はいないので、誰のための教育なのか誰のためのしつけなのか、おかしなことになっている。
すごく残念なのは、子どもの生活態度のようなことは、家庭内のしつけに任されているということを、多くの人が信じているので、難しいのだ。
おかしな話しなのだが、父親が娘に暴行虐待する事件もあるし、性的虐待があったりする。
社会や人に染み着いたことは、簡単には修正できない。
もう、日本には権力者はいないので、子どものしつけは家族で考えてやれとは誰も言わない。
誰も言わないのにかかわらず、みんなは、家庭でやるものだと信じているの

だ。
私の個人的な考えだが、子どもの人間としてふさわしい人になることは、子どもの学習によるものである。
私の個人的な意見ではこうなる。
家族の家長が教育するからではない。
家族の家長が教育すると、家系の教えを教え育むことになってしまう。
もう誰も、何々家の家訓を教えろとは言わないのに、家長になったらやってしまうのだ。
すごくおかしなことになっている。
誰もしつけについてとやかく言わないのだから、もう、しつけという言葉を死語に追いやってもいいのではないかと思う。
ただ、もし、しつけをしないと宣言したお母さんがいたら、ネットでは、とやかく言われてしまう可能性はある。
これは、信念の問題である。
私は、自分の息子たちにしつけなどしなかった。
しかし。今のようなキチンとした私の考えがなかったので、曖昧なままその時期を過ごしてしまった。
しかし、今は、しつけという言葉は死語にすべきだと言っている。
私には信念はある。

日本のガバナンスにおける教育

本来は、日本の統治と教育は無関係なのだが、日本の場合は、昔から、統治と教育は密接に関わっている。
秀吉は、武士以外は刀を持ってはいけないという命令を出した。
日本の統治に自信があったのだ。
みんなのチカラを借りなくても、侍だけで反乱を収められると思ったに違いない。
侍の反乱より、みんなの反乱を恐れた。
それは、圧倒的な数の違いである。

世界どこでも、みんなの反乱によって権力者は潰れてしまう。
例外はない。
秀吉が、武士以外のみんなから刀を取り上げた理由はよくわかる。
もしここで刀狩りをやらなかったら、アメリカの銃規制のように、みんなが武器を持つ社会になっていたかもしれない。
秀吉の怖れなのか秀吉の権力の強さなのか。
日本のガバナンスは、ずっと権力のガバナンスである。
権力者の時代だったから当然かもしれない。
権力者は、日本の統治に、ヒエラルキーと上意下達で対応した。
権力争いで何人もの権力者が交替したのだが、交替したら新しい権力者も、同じ方法をとった。
権力のエクスタシーである。ヒエラルキーと上意下達である。
明治維新があって、侍の権力者から侍ではない権力者に主権者が替わろうとしたのだろうが、結局は、武士のガバナンスの延長になった。
明治政府が「教え育む」でやったことは、富国強兵だった。
黒船襲来からずっと日本の為政者が考えたことは、富国強兵である。
日本が列強国に植民地にされるという怖れである。
明治政府になって、従来侍だけに「教え育む」がなされていたものが、日本の国民全体になされるようになった。
富国強兵である。
明治政府は、学校を急いだ。
２０２０年の隣国の隣の国を見ても、為政者が、幼い頃からの「教え育む」をやりたくなる理由がわかりやすい。
人間とはいかに生きるべきかを、真っ白なキャンバスで考えることなど、余計なことなのだ。
明治政府は、王政復古と富国強兵を「教え育む」ことにしたのだ。
この「教え育む」の流れは、ずっと続いた。
そして、明治政府の念願の通り、世界列強の仲間入りを果たして、以来、４度も世界列強と戦った。
第二次世界大戦の時などは、「教え育む」が浸透して、幼い子ども達から大人まで、外国と戦うことに反対する人など少なくなっていた。

そして敗戦である。
日本の「教え育む」は崩壊した。
そして、日本の主権者はあなたたちになって、子どもたちだけではなくて大人も戸惑った。
アメリカにおいては、アメリカがイギリスから独立したときから権力者がいなかったのだが、戦勝国として敗戦国の臨むガバナンスは、当然のように、みんなが主権者のガバナンスである。
国家のガバナンスが替わると、当然のように「教え育む」が替わることになる。
私は１９４４年生まれだから、小学校時代は、戦後６年くらいが経過していた。
まだ６年である。
しかし、私は、戦前の学校でやっていたことを何も知らない。
王政復古や富国強兵を知らない。
私がギリギリ王政復古や富国強兵を知らない人かもしれない。
私より６歳上の人だったら、終戦時１年生だった。
ほんの少しの差で、ものすごく変わっていると私は思う。
教科書だってまるで違うのだ。
終戦直後でどんな教科書だったか教科書はあったのかなど何も覚えていない。
ただ、私はまったく戦後の人間であることは間違いない。
親父が紙１枚で戦地に向かったという話しを少し大きくなって聞いたのだが、不思議な気がした。
自分だったら、断ってしまうのにと思ったものだ。
その後、おふくろに話しを聞いたのだが、遠い昔の話しのようだった。
たかだか10年くらい前の話しだ。
断ることなどできないし、断るつもりはなかったと聞いてますます不思議だと思った。
これは「教え育む」なのだ。
だから私は教育という言葉を使わないわけではない。
私が教育という言葉を使わないのは、教育が権力者の言葉だとわかったから

だ。
人類の歴史上、間違いをしたのは、権力者をつくってしまったことだ。
もし権力者の時代がなかったならば、たくさんの戦争はなかった。
数えきれないほどの名もない人が死ぬことはなかった。
ことあるごとに自分が保有したいものを増やしていったのだ。
そのために戦うことはフツウのことだった。
そのためには権力を把握しているみんなの協力が必要になる。
戦争するにも兵士を訓練しないといけない。
戦争の意味や勝ち方をみんなに知ってほしい。
日本の明治政府は、王政復古と富国強兵を目指した。
何のためか。
列強になるためだ。
当然のことながら、王政復古と富国強兵を、子どや学生に教え育む。
これを教育と言う。
この明治政府の教育は、１９４５年まで続いた。
もし第２次世界大戦がなかったならば、そのまま２０２０年も続いていた可能性がある。
もしそのままなら、隣国の隣の国と同じような感じの教育になっていただろう。
教育は、このように、国家のガバナンスと密接に繋がっている。
私は１９４４年２月生まれなのだが、王政復古と富国強兵の教育を全く知らない。
１９４５年以降２０２０年の教育も、王政復古と富国強兵はない。
したがって、私は、王政復古も富国強兵も、何のことかよく知らなかった。
しかし、私で今年76になるのだが、私より20くらい年上で、いままでの教育行政に携わってきていた人たちが、たくさんいて、王政復古と富国強兵に哀愁がある教育者がたくさんいらっしゃることは理解できる。
その方たちと私は、根本的に、話し合うことができない。
私への教育が、王政復古富国強兵ではないからではなくて、私が自分で確立した自分の考えによるところなのだ。
私は、教育という言葉を使わない。

権力者の時代を再来させないことが大事と思っているからだ。

インターネットが教育の概念を変える

１９９５年くらいから日本に入ってきたインターネットが、事実上、日本の「教え育む」を替えることになると思っている。
時代は、１９４５年から個の時代に入りたがっているのだが、ツールがなかった。
依然として、ヒエラルキーと上意下達という権力のガバナンスにたよって運営している。
明らかに秀吉の時代とは異なっているのに、権力者も少ないのに、ガバナンスが他にないのだ。
権力のガバナンスに頼っている限りは、ヒエラルキーと上意下達はなくならない。
インターネットもよくガンバっているのだが、なにせネットを使う人の意識が変わらない。
確かに、集団の時代からこの時代に変化しているのだが、決定的な、権力のガバナンスが、なかなか難しい。
人は、権力のガバナンスと異なることを経験したことがないのだ。
いくら個の時代と言っても、みんなが個で収入を得て自由に暮らすことにはならない。
ただ、教育においては、大きく変化している。
今日は、２０２０年３月13日である。
新型コロナウイルスが世界的に感染者を増やしていて、世界的に、例えば学校を休校にしているなどが多い。
日本でも、人が集まることを懸念する状況になっている。
中国や観光でも同じようになっているらしいのだが、ネットで先生からの宿題を聞いたり講義を聞いたりになっている。
もしかしたら、これでもいいのではないかと感じる子どもたちも多いかもしれない。

なにも毎日毎日学校に集まることに、どういう意味があるのか、考える大人や子どもたちも増えるかもしれない。
確かにそうなのだ。
為政者が誰だか今ではわからないが、みんなで同じ時間に集まって、集団行動をすることに、意味があったのだろう。
富国強兵などを国家が望むのだったら、毎日決まった時間に集まることが大事だろう。
もし個の時代になったのだったら、何もみんなが同じ時間に教室に集まる必要もないのだろう。
やはり教育というのは、誰かが、教え育もうとしたことなのだ。
せっかくインターネットがあるのに、教育の場では使わないのだ。
今回のように、新型コロナウイルス感染が拡大すると、その封じ込めのために、学校を休校にしたりする。
仕方なくて、ネットを使う事になったりする。
子ども達も、学校に集まることになっているスケジュールは、そうしないと気持ちが良くないこともあるのだ。
もうずっと学校に集まることが習慣になっているのだから、そこが変わることは、気持ちが良くないのだろう。
個の時代になったのだから、集団で同じ時間に集まる必要もないように思うのだが、なかなか難しいようだ。
武漢や韓国では、これで自宅学習が一気に普及するだろう。
日本ではどの学校も、厚生省を待つので、中国や韓国のような思い切ったことが、学校ではできない。
私学では、ベツに厚生省の言葉を待つ必要もないのだが、それでも日本の場合は、待ってしまうだろう。
他国の子どもたちと競争することはよくないのだが、日本の中で、自分で人生を切り開いて行ける人は、日本のこのような誰かがなにかを言うまで待ってしまうことを振り払った人しかあり得ないのだろう。
学校授業をオンラインでリアルにやることなど、すごくいいではないかと思う。
放送大学というものがあるのだが、どういう仕組みなのだろう。

テレビ的なのだろうか。
オンラインリアルであったら、質問もできるし私などは個の方法が好ましいと思ってしまう。
教育とは、教え育むものだから、ほっておいたら、一方的にある考えに基づいて情報がやってくる。
そういう事ではなくて、私は、自分がやりたいことをしたいのだ。
オンラインリアルな授業が、中国や韓国では、あまり議論されずに社会に浸透するのに、なぜ日本では、フツウにならないのだろうか。
私は、日本の教育エスタブリッシュメントの存在があると思っている。
自分達の手の中に置いておきたいからではないかと疑ってしまう。
たとえば、教科書などには典型的に見えてくる。
日本には権力者はいないので、秀吉の時代だったら、秀吉の考えと異なる教科書になったら、秀吉が怒ってしまう。
しかし、日本には、秀吉のような権力者いなくて、日本の主権者は日本のみんなのだ。
しかし、教え育むにおいては、教育エスタブリッシュメントが存在する。
おかしなことになっているのだ、
いじめ問題などで、時々、教育エスタブリッシュメントの存在が明らかになるような出来事が起こったりする。
こんな状態では、授業のオンラインリアル化などは、日本では、難しい。
現在の新型コロナ用マスクで、カラーマスクは望ましくないと言わしめるのは、依然として、教育エスタブリッシュメントが存在することを表わしている。

選抜になって

秀吉の時代には、選抜などなかっただろう。
抜擢しかないのだ。
自分がこれと思う人をヒエラルキーの大事なポジションにつける。
徳川幕府は例外として、権力者の統治が長く続かないのは、人事にもある。

優秀な人材が、国家を考えるようなっていなかったら、それだけで崩れる。
徳川幕府は、３００年も続いたのだが、それなりに、統治スタイルが優秀だった。
徳川幕府も権力者の統治なので、権力のガバナンスで行われていて、ヒエラルキーと上意下達が、そのスタイツだった。
このスタイルは、例外なく、いつかは崩れる。
明治になって、それまで教え育むが侍社会でしかなかったものが、日本のすべての国民に対して行われるものに替わっていった。
それでも、抜擢という名を借りての、オレの息子を推薦するといったことが、頻繁だっただろう。
それでも、江戸時代のような、大名の息子が大名になる風習などがなくなってはいた。
どうしても、選抜にならないと困ることができたのだ。
日本を背負っていく人たちの選抜である。
すごいことを考えた人たちがいた。
偏差値である。
いいとかワルイとかではなくて、誰も文句を言えない方式を考えついたのだ。
日本が選抜体制に移行できたのは、偏差値のおかげである。
「私たちの大学は偏差値の上位から自動的に入学者を決めていますので」
大学でもやっと、「オレに息子を入学させてくれ」といったエライ人へのお断りの文句ができたのだ。
それでも２０１９年には、「女性はながく医者をやってくれないので入学を減らそう」として、試験結果に下駄を履かせたり差し引いたりしていたことが判明した。
「オンナは医者には向かない」と言われているようなものだ。
これでは、せっかくの選抜も壊れてしまう。
事実上、大学の偉かった人の近親者には、プラス加点されていたのだろう。
「自分の大学の卒業生や教授の近親者が多くなってなぜワルイのか」
これでは、また元に戻ってしまう。
なかなか難しい。

私の個人的な考えでは、一旦、偏差値のようなものを導入して、悪しき抜擢を改善しないといけなかったのだが、この偏差値による選抜を、また改善しないといけないのではないかと思っている。
それは、偏差値のシステムの偏りにある。
偏差値は、スキルを追っているのだが、本来は、スキルも含めて、人間を追わないといけないと思うのだ。
なぜかというと、偏差値の高い人は、政治においても公務員においても会社においても、地位の高い人になるからだ。
多くの部下を抱える人は、人間的にも優れた人でなければならないのだが、偏差値には、人間的に優れた人である判定などどこにもないのだ。
もう１つ足りない所は、人間の優秀さは、スキルだけではなくて、クリエイティブさが欠かせない。
サンフランシスコの田舎風のおじさんが開発したスマホは、スキルが高いからと言って発想できるものではない。
日本が、経済的にも活気を失っているのは、このクリエイティブさにあると、私は見ている。
偏差値のスキルの核と能力と、人間的な立派さと、発想能力だと、私は思うのだ。
偏差値だけでは足りない。
国家を運営するには足りない。
確かに、「オレの息子をなんとかしてくれ」という悪しき抜擢には好都合であったのだが、それだけでは足りなかった。
偏差値を改定するのか、あるいは別の何かを持ってくるのか、早急に動かないといけない。
このままだと、日本は、沈静化してしまう。

学習はコンセプトとお手本とモノ

教え育まれるものか

私は教育という言葉を使わない。
「教え育む」ものが決して良いと思わないからだ。
以前に、民間保育園をはじめようとして厚生省と話し合ったことがある。
「保育に欠ける子どもを保育園に入れる」
こう言われて、こりゃダメだと思った。
いまどき保育に欠ける子に保育をやってやる姿勢なのだ。
「教えを育んでやる」
対象は、教養のない子どもたちと人である。
「年金を払ってやる」
私は76才だから年金生活者だ。
最初に年金をいただくために書類を書きに行ったのだが、上から目線で、年金を払ってやる姿勢を強く感じた。
なんでも同じなのだ。
今日は２０２０年４月25日なのだが、世界中で新型異なウイルスに襲われて四苦八苦していて、死者も何万人にも達している。
私も、76才であるし、悪性リンパ腫ガンの既往歴がある。
「体温が３７・５の４日連続だったらＰＲＣ検査をやってやる」
「高齢者だったら３７・５が２日連続でも検査やってやる」
こんなオフレが出ている。
私は、４月７日に米を買いに行って、夜中に筋肉痛になって七転八倒して翌朝３７・１になった。そして翌日３６・６だった。
検査やってもらえないので、布団にもぐった。
私のような高齢者は、お上の、こういったことには慣れているのだが、さすがに、今回はシンドイ。
布団の中で、悲しくなる高齢者が現れるだろう。
お上は、常にこうなのだ。

お上というには、今は民が主権者だから、民の下部でなければならないのに、戦後70年も過ぎたのに、あまり変化しない。
今回の新型コロナ騒動で私はつくづく考えてしまうのだが、世界中の人々は、自分の健康について、ほとんど無防備だということだ。
生き物のコンセプトは生き残ることなのだが、それすら認識していない。私しか言わないかもしれないこともすごく不思議なのだ。
自分のコンセプトが生き残ることであったら、自分の健康については何よりも重要な情報なのだが、病気にならない限り、健康という言葉すら意味がわからないのだ。
毎日毎日、テレビは、新型コロナのことしかやっていないのだが、それでみんなの健康に関する勉強がなされたかというと、そうではない。
延々とやっているのは、いかに感染しないかである。
どの国のコロナ問題を仕切っている人は、国民の健康よりも、感染の抑え込みに興味があるのだ。
感染の抑え込みそのものが自身の評価に関係しているからだ。
新型コロナを仕切っている人は、なんらかのことで、社会の好ましい評価が欲しい人だからだ。
一方で、仕切られて従う人々というか感染者の可能性者は、感染もあるがもしかしたら死んでしまうかもしれない恐怖がある。
仕切っている人たちの恐怖は、もしかして作戦を間違えて社会からの批判を浴びたりすることなのだ。
お互いに恐怖がズレる。
仕切っている人たちが、感染者のことしか言わないので、マスコミもそうである。
これでは、日本のみんなが長い期間自宅にいるのだが、健康について何も勉強ができないことになっている。
お上の興味の範疇の中でしか展開されていない。
転んでもタダで起きてはいけない。
コロナでみんな恐怖に陥っているのだが、時間もあるのに、自分の健康のことを何も勉強しないのだ。
お上に頼るのではなくて、自分でコロナから守ろうとしたらどうすればいい

のか考えなければならないと思う。
今はまだコロナ騒動の中にあるのだが、感染を防ぐにはどのような生活をすることが好ましいかを学んだだけのように思う。
それはそれで大事なことなのだが、ここまで隠れコロナがいるのだったら、自分の知らぬ間に感染してしまうことも考えられる。
やはり、自分で防がないといけないのだろう。
今日は６月10日である。
緊急事態宣言が解除されて何日にもなるのだが、私の感じ方では、依然として自粛の雰囲気が強いような気がする。
私は、ずっと電車も乗ったことがなかったのだが、右目が黄斑変形症になって、右目だけ電信柱が曲がって見えるようになって、左右の目の負担が大きくて、すぐに疲れてしまう。
たまたま６月３日に、３カ月の経過観察があって、案の定、眼球注射をしますになった。
そして、６月９日３回目の眼球注射になった。
たまた６月３日は、息子に車で、ガンの経過観察に連れて行ってもらったので、黄斑変形症も、車で眼科病院に送ってもらった。
だから、６月９日数カ月ぶりに電車に乗った。
そして、昨日は、１日目の経過観察だった。
私は、ずっと心配だった。
もしかしたら、私自身が隠れコロナだったら、私は、ガンの病院も眼科の病院も、院内感染を起こさせてしまう。
４月７日に、米を買いに行って、夜３７・１になって翌日は３６・６だった。
私は、感染したと思ったのだが、76でガンの既往者の場合は、３７・５が２日続いたら電話してくれである。
それまで勝手に来るなである。
こんなオフレは、信長くらいしか出せない。
私は感染したと思ったのだが、そのまま布団にもぐりこんだ。
高齢者だとか病気持ちの場合は、半分くらいあきらめが心の中にあるので、多くの高齢者や病気持ちが、布団をかぶっただろうと理解できる。

そして、私はたまたま生き残ったのだが、多くの高齢者が、自宅の布団で亡くなったと、理解できる。
ずっと、私は隠れコロナかもしれないと思っていた。
しかし、私の心配のためにＰＣＲ検査をすることなどない。
私は、ずっと、６月３日のガンの病院と黄斑変形症の病院を汚染させるかもしれないと、心配していた。
よく考えてみると、４月７日から２カ月近くが経過しているのだ。
いくらなんでも、もう私の身体にコロナはいない。
ずっと、電車も乗らずに、会食もせずに、買い物も週１に絞っていた。
運動ができないで困っていたのだが、私は私で、コロナで何かあっても、大事には扱ってもらえないと思って、免疫とミトコンドリアの強化に努めてきた。
栄養と休息と運動なのだが、特に、栄養と休息である、
そして、昨日は、黄斑変形症の眼中１日目の経過観察だった。
私は、ガンの病院でも眼科の病院でも思ったのだが、人が少ない。
できるだけみんな、病院には行かないようにしている。
これでは、病院経営が成り立たなくなってしまう。
私自身は２日も続けて電車に乗って、イヤな気持ちになった。
１週間後の経過観察でまた電車に乗ることになる。
76歳でガン既往者だから、感染にはすごく注意をしている。
最近、プロ野球が全員ＰＣＲ検査をするらしい。
反対しているわけではないのだが、最も感染したら死に追いやられる危険性が高い介護施設などの皆さんのＰＣＲ検査はしないのだろうか。
これは、教え育まれることの一環だから、私は信用できないのだ。
私は、自分でコロナを学習しないといけないと思っている。
新型コロナなどになると、特に高齢者では、よくわからない。
ついつい教え育むに追従してしまうことになる。
私は、感染症分野の人たちの、上から目線が気になっている。
どうしてわからないのかという態度や言葉に、ついイライラしてしまう。
あの人たちは、完全に教え育む側の人たちなのだ。
教え育む側の人は、権力者の立場をとる人で。教え育まれる側の人は、権力

者からの指示命令を聞くという立場である。
秀吉の時代とあまり変わらない。
権力のガバナンスのやりかたである。
権力のヒエラルキーがあって、上意下達である。
コロナとの日本の戦い方を上意下達する。
私は、信用できないと思っているので、自分のやり方を守っている。
信用できない理由は、あの人たちは、コロナのことしか見ていないからだ。
人を見ていない。
コロナが湿度に弱いとか、夏場に感染力が衰えるとか、コロナの研究しかやってないのだ。
確かに、それは大事なことなのだが、私は、次のように、私の身体とコロナの闘いを見ている。
今回の新型コロナは、いままでのコロナと少し異なっていて、増殖力が強いのだと思う。
したがって、高齢者では、重症になって死に至ることもあるのだろう。
ここで、みんながコロナを研究しているのだが、私には、コロナに興味がある人が多くて、少しでも、新型コロナについての特徴を明らかにしたがっていると思うのだ。
私は、そういうことはどうでもよい。
問題なのは、増殖力が大きい新型ウイルスと私が、どのように闘うかである。
一般的には、感染しない方法に限られる対策を教え育まれる。
マスクと手洗いとうがいとシャワーと消毒液とソーシャルディスタンスである。
そんなことはわかっている。
それでも、高齢者や病気既往者は感染して重症化して危なくなるのだ。
私は、免疫力の強い人と弱い人に分けられると思っている。
私が抗がん剤治療を行っていた時、抗がん剤の副作用で、白血球数が常に低下していた。
したがって、見舞いに来られた子どもからでも、コロナの一種のインフルエンザに感染してしまう。

ガン患者は、常に風邪ひきさんなのだ。
私は、１度も風邪になったことがない。
理由は、人と接触をしないことだ。
もちろん、マスクと手洗いとうがいとシャワーと消毒液とソーシャルディスタンスをずっとやっている。
看護師に何度も何度もしつこく言われた。
自宅に帰って買い物に行くときは、週１にして朝１にしろ。マスクをして帰ったら手を洗ってうがいをしろ。
今もこれを守っている。
しかし、私が、新型コロナを含めてコロナと闘えるのは、私が免疫力を低下させないように注意しているからだと思っている。
４月８日に米を買いに行ってマスクをしていないで、しまったと思った。
夜中に全身筋肉痛で翌朝３７・１だったが、３７・５が２日連続だったら電話してくれだったので、布団をかぶった。そして翌朝３６・６だった。
私が新型コロナに感染したと思っている。
しかし、私の免疫が侵入した新型コロナを撃退したと思っている。
もし、ガン治療が終わったばかりだったら危なかった。
もし、私の免疫がコロナによって打ち負かされたら、最後は、新型コロナと私のミトコンドリアが、最終的な闘いを行うと思っている。
理由は、新型コロナは好気性のウイルスなので、最終的には肺の細胞に侵入する。ウイルスなので細胞に親友するしか生き残れない。
ところが、細胞にはすでに18億年前からミトコンドリアというウイルスが棲んでいる。
住んでいる理由はコロナと同じである。
細胞中で酸素を受け取ることだ。人などは、血液回路で赤血球で酸素を送っているからだ。
ミトコンドリアから横取りしたいのだが、もし新型コロナが勝てば、ミトコンドリアは死んで私も死ぬ。
ミトコンドリアの量は、24歳で10あったものが70歳では６になってしまう。
加齢で減ってしまうのだ。

コロナが侵入して８まで増幅しても、24歳の若者のミトコンドリアは勝てるのだが、70歳の高齢者のミトコンドリアは、コロナに負けてしまう。
高齢者がたくさん死んでしまうのは、ここに理由がある。
私は、誰も、免疫を強化することとミトコンドリアを強化することを、教え育んでくれないので、自分で学習している。
免疫は、栄養と休息と運動だと思っている。
３食ガッチリ食べて、乳酸菌を欠かさないようにしている。
休息は、朝ごはん後と昼ごはん後と夜ご飯後、それぞれ30分から１時間眠る。もちろん23時になったら眠って朝６時に起きる。
副交感神経になるのは食事後だから眠くなったらとにかく眠るようにしている。
運動は、今日も雨と強風の隙間に、回転運動に行ってきた。75からゴルフをはじめた。近いところに練習場があるからだ。山も行くし、秩父もある気に行くしプールで泳ぐ。
みんなガンのリハビリのためにやっている運動なのだが、実は私の免疫を弱らせないのだと思っている。
私のミトコンドリアを弱らせないためには、水泳がいいのだが、今はプールに行けないでいる。プールが休みだったり、私が電車に乗りたくなかったりだ。
ミトコンドリアは、環境気圧や温度に弱いので、山に登って気圧の変化を体に与えると好ましいし、環境温度は、温水プールが好ましい。
３６・９度と30度の違いがある。
ミトコンドリアは、これではまずいので、頑張って、低い環境温度でもなんとかしようと努力する。これがミトコンドリアを鍛えることになる。しかし、鍛えることとミトコンドリアが弱ることは異なる。時々山で、寒い環境が長引いて、低温症になってしまうことがある。
低温症とは、ミトコンドリアが弱ったり死んでしまったりすることだ。
鍛えすぎるとミトコンドリアを痛めてしまう。
しかし、私はよく知っている。
山に登ることもミトコンドリアを鍛えることになる。
気圧のこととは別に、激しい運動は、体温の大きな上下になる。

少し激しい運動をするだけでもミトコンドリアを鍛えることになる。
もちろん、免疫も鍛えることになる。
私はこのように考えている。
このようなことは、私が自分で学習したことだ。
教え育まれたことではない

教育ではなく学習

私が教育という言葉を使わない。
教育は、教え育みたい人が、教育というカリキュラムをつくることだからだ。
そしたら私は何を使っているのか。
当然学習である。
教育は、受け取るとか受け取らないとかではなくて、勝手に受け取らせようとするものだが、学習は、自分で受け取ろうとする行為だ。
私は、３年間保育園の園長をやらせていただいた。
私はいつもスタッフに叱られていた。
カリキュラムがあるから教えるように。
私が子どもたちに教えたことは何もない。
私は、おもちゃ箱をひっくり返しただけだ。
それぞれ、おもしろかったら、何か言ってくる。
私が何か教えると言っても、知らん顔になることは知っていた。
人間おもしろくなかったら何もしないのだ。
そこで私の考えは固まった。
誰かの意図するとおりの教え育むは止めよう。
自分がこれだと思うことを積極的に受け取りに行くように仕向けることが大事だと思った。
よくよく考えてみると、人間共通して、12カ月くらいから、自分がおもしろいと感じることしかしない。
今日この絵本を読むと言っても知らん顔をする。

ミッキーの絵本を持ってくるとみんな寄ってくる。
いいとかワルイではない。
人間はこのようになっている。
おもしろいと自分が感じることにしか身体が動かないのだ。
しかるに、教育は、そんな人間のどうにもならない感覚を、強制的に押しとどめて、教え育みたいことを教育する。
こういうことはどこから来るのか、子どもは大人の未発達な存在であると、大人はみんな考えているからだ。
それは違う。
あかちゃんだけよろいが何もないから、１００％愛の人間なのだ。
嘘も何もない唯一の人間なのだ。
そういう特殊なチカラを持った人間の１ジャンルなのだ。
それがあかちゃんというか子どもなのだ。
また怒られるからガマンして聞いておこうなどと考えない。
４歳くらいになると、お父さんの言うことを聞きますから勘弁してくださいになってくる。よろいを理解してくるのだ。
私は、３歳までの保育園の園長だった。
お母さんが、園長先生おはようございますと言うんだよ？と教える。
私は、お母さんを呼んで怒った。
子どもたちにとって私はおもしろいことをしてくれる人なのだ。
私がおもしろくなかったら、子どもたちは知らん顔をするのだ。
それでいい。
これも人間共通だが、人間の優秀な頭脳にはコンセプトがあって、わからないことを明らかにすることだ。
優秀な頭脳は、生き物の中では、人間にしかない。
そして、そのコンセプトは、わからないことを明らかにすることだ、
人間も含めての生き物すべては、遺伝子のコンセプトで、生き残ることである。
馬が、火星に興味を示すことはない。
優秀な頭脳がないからだ。
優秀な頭脳は、時には見境もなく、わからないことを明らかにしたがる。

ノーベルが開発したダイナマイトよりも爆発力の強い火薬をつくれるか、わからないことを明らかにしようとする。
それが結果的に、広島と長崎に使われて多くの市民を殺戮するのだが、そんな将来のことなどを無視して。ダイナマイトを越える爆弾を作りたがる。
優秀な頭脳はどうしようもない。
だからあかちゃんの時から、わからないことを明らかにしたがる。
２階に行きたがる。
２階に何があるか知りたいからだ。
階段を転げ墜ちてこっぴどく叩かれるが、２階に何があるか知りたいことは変わらない。

学習のコンセプト

人間が何かを学ぶことは教育ではなくて学習であると私は言っている。
教育は、教え育むことなので、何かを教えてほしいとか教えてほしくないことに関わらず、教えることだ。
したがって教える立場の人がたくさん存在していることになる。
一般的には、親も学校の先生もそうだ。
私は、教えるのではなくて、人が学ぶことは、自分の学習によるものだと言っている。
学習は、コンセプトとモノとお手本でなされる。
学習のコンセプトである。
私は、必死になって、悪性リンパ腫の学習をしている。黄斑変形症の学習をしている。脊柱狭窄による神経線維の炎症の学習もしている。
コンセプトは、もちろん生き残ることだ。
私は、人間である前に生き物だから、人間だけが生き残ることを絶対視していないのだが、それはおかしいのだと思っている。
私は、今は、私が生き残ることをコンセプトにしている。
生き残るコンセプトがあるから、私を生き残ることから陥落させるかもしれない病気を学習している。

もし、生き残るコンセプトでなくて、たとえば、今は仕事をしていないのだが、仕事をしているとすれば、仕事継続をコンセプトにしたりする。
すると、悪性リンパ腫や黄斑変形症や脊柱狭窄を学習しなくなる。
やはり学習はコンセプト次第なのだ。
あかちゃんの場合はどうなっているのだろうか。
あかちゃんには学習のコンセプトは、生れた時から備わっている。
生れる前からも学習している。
たとえば、あかちゃんは生まれた時には、苦みと酸っぱさと旨さをすでに知っている。
食べ物で生き残れないことがあるからだ。
生れてすぐが最も生き残りにくいことも承知している。
お母さんの母乳の旨味を知っている。
同時に、お母さんの母乳の匂いを生まれた時にすでに学習している。
隣のお母さんの母乳の匂いと別物だと判断できる。
水道水の塩素の匂いをダメだと判断できる。
柑橘系の甘い酸っぱい匂いに好感を示す。
すでに、生れる前に、学習している。
今は狼がいないが、昔は、人間のあかちゃんが狼の匂いや唸り声を聴くと、大泣きする。
泣くのではなく鳴く。
お母さんを呼んでいる。
生れてしばらくは、猫があまり好きではない。あの唸り声を学習しているからだ。
誰が教えるわけではない。
自分で学習している。
指示しているのは、多分天の声だ。
「苦いものが口に入ったら吐き出せ」

学習のモノ

あかちゃんが少し大きくなると、天声はいなくなってしまう。
ただ、自己学習のチカラは変わらない。
あかちゃんの時の学習のコンセプトは生き残ることだ。
そして次第に、人間としてのわからないことを明らかにすることにコンセプトは向かう。
あかちゃんの時の学習のコンセプトは唯一生き残ることなのだが、大きくなっても今の私のようにコンセプトが生き残ることに戻る場合もある。
私の人間としてのコンセプト心棒は挑戦とクリエイティブなのだが、それが消えているわけではない。
ただ、圧倒的に、今の私の学習のコンセプトは、生き残ることだ。
学習はコンセプトとモノと学習だから、モノがなかったら学習できない。
悪性リンパ腫や黄斑変形症や脊柱狭窄は、私はネットでしか学習できない。
幸いなことに私はネットが間に合った。
もしネットがなかったら、毎日本屋さんか図書館に通っただろう。
昔そうだった。
神田に勤め先があった。
毎日のようにお昼休みは神田の本屋街に行っていた。
学習に本やネットは欠かせない。
あかちゃんでも、モノがないと学習できない。
ある時は２階への階段がモノになったりする。
大人になっても同じである。
学校そのものが学習のモノでもある。
私は今は悪性リンパ腫や黄斑変形症や脊柱狭窄の学習が生き残るコンセプトに従って優先しているのだが、生き残るコンセプトが落ち着いてくると、野菜の育て方の学習をしたりがはじまる。
ゴルフスイングの学習とか。
学習のモノは今の私はほとんどネットである。

学習のお手本

私の悪性リンパ腫や黄斑変形症や脊柱狭窄の学習にはお手本が欠かせない。
私のお手本は看護師さんである。
先生がやっていることがよくわからないし奥が深いので私には手に負えない。
患者は私なので、私の生活そのものが大事なのだが、生活のお手本は誰もいない。
最も近いのは看護師さんである。
「風邪をもらったら免疫が低下しているから危ないので買物はお店のオープンの時間に行け」
「マスクを忘れるな」
「帰ったら手洗いをしろ」
このようなことは、私の身体に根付いている。
「毎日同じ習慣になるようにしろ」
毎朝６時には起きる。
８時までに朝ごはんを食べて12時にお昼を食べて夕方６時には晩ごはんを食べる。
「シッカリ眠れ」
今は朝ごはん昼ごはん夕ご飯の後に用事がなければ１時間くらい眠る。
「水分はシッカリ補給して夜オシッコに行け」
私の場合は便秘が最も怖いことになる。
ガンになる前から、電車で３度倒れた。
ガンになって２度である。
「便秘による突発性神経反射」
合計５度の失神は危険なことだった。
ガンになって、神経科の女性の先生に教わった。
便秘の本質がわかった。
今は最も注意していることだ。
夜オシッコに行けは、ずっと夜中に起きておしっこに行っている。
ガン細胞は、免疫が壊して細胞間水の中に捨てる。
最終的にオシッコになって体外に出される。
これを知った時目からうろこが落ちた。

今は抗ガン剤ではなくて私の自然免疫が毎日できているガン細胞を壊して細胞間水に捨てている。
あかちゃんの場合は、この学習のお手本がなかったら何もできない。
狼さらわれて育てられたあかちゃんは 2 足歩行ができない。
身体の筋皮はできるのだが学習ができないから 2 足歩行はできない。
歩行は学習によって獲得する。
あかちゃんの場合は、ほとんどがお手本による学習である。
箸の使い方もお手本である。
お父さんやお母さんは、あかちゃんのお手本のために存在しているようなものだ。
大人になっても、学習のお手本は変わらない。
お手本がいなかったら学習できない。

自己学習のチカラ

もともと自己学習できるのに

あかちゃんをよく見ていると、彼らは、お母さんやお父さんの言うことを聞いているわけではない。
保育園でも、園長や担当保育士の話しを聞いているわけではない。
ダンゴムシを食べてはいけないと言われても、何かわからないから口に入れて調べてみる。
こっぴどく怒られるのだが、それでもまたやる。
自分で何でも調べてみるのだ。
親や保育士を信用していないわけではないのだが、何でも自分で確かめるように身体動くので仕方がない。
お母さんと保育士のあかちゃんとの闘いは、言うことをきかないことだ。
あかちゃんは、内なる自分の声に忠実に動く。
内なる自分の声は、生れたばかりの自分を襲う生き物声を覚えさせているし、食べてはいけない酸っぱさや苦さを覚えさせられている。
おっぱいだけは完璧に飲めるようになっている。そしてお母さんの匂いを完璧に覚えらせられる。
この内なる言葉が大事である。
お母さんや保育士が何と言っても聞こえはしない。
お母さんやお父さんによっては、ここをよく思ってくれない人がいて、ぶん殴られたりする。
いじめられたりする。
あかちゃんは自己学習するようにできている。
お母さんやお父さんや保育士の言っていることが理解できない。
当然である。
親からの虐待が多いのだが、当然かもしれない。
大人がもっとあかちゃんのことを研究しないといけないだろう。

あかちゃんの自己学習を無にするもの

もし、今の私が30歳であったら、私は、あかちゃんの自己学習のチカラを尊重するだろう。
決して、まだ親の言うことがわからないなどとは言わない。
必死になって言葉を教えたりしない。
しかし、私の30歳は、残念なことに、子どもは大人の未熟な子どもだと考えていたフツウの男だった。
言い訳しても仕方がない。
今の私が特殊なのだ。
今の私は、ほんとに子どもたちの絶対的な味方になれる。
しかし、はっきり言って、日本の大人には、私のような人は数少ない。
私だったら、あかちゃんの自己学習するチカラを無にするようなことはしない。
しかし、残念だが、私のような人は数少ないから、子どもに早く言葉を教える。
自分の言っていることを理解してほしいからだ。
いわゆる教育をするのだ。
子どもが幼い時は家庭でしつけをしてほしいと、日本の教育を仕切っている人たちは、みんな思っている。
歯を磨いたり、パジャマを自分で着られるようになったり、トイレが自分でできるようになったり、隣のおばさんにあいさつができたり、言葉を話せるようになったりである。
大人はこのように、あかちゃんは、大人の未熟な人と考えているので、大人のというか、自分の考えをあかちゃんに吹き込んでしまう。
あかちゃんが少し大きくなってもそれは変わらない。
保育園に行っても幼稚園に行っても、大人が替わるだけだ。
一方的に、次から次に、いわゆる教えられる。
理解できなかったらアタマがワルイになる。
ほんとは理解などできないが怒られるから覚えようとする。

もう次第に、もともと持っている自己学習のチカラを失ってしまう。
あれだけ自分でリスクを負って新しいことを知ろうとしていたのに。
これを突破できる子どもはいない。
このことに抵抗すれば、虐待に出会ったりする。
大人はそれほど恐ろしい。
自分が正しいと思い込んでいるからだ。
教え育むことがおかしいことを疑ってもいない。

あかちゃんの自己学習のチカラを削がない方法

あかちゃんの自己学習のチカラウを削がない方法があるのだろうか。
それはあかちゃんにはムリだ。
立派な育児者がいなければそれは叶わない。
あかちゃん自身がこのことを知ることは１００％できない。
自分の身体に、自己学習のチカラがあることを理解することは１００％できない。
知っていれば、親などの育児者と闘うことになる。
しかし、１００％知ることなどないからこのことで育児者と闘うことはない。
もし、あかちゃんが２階に自分で行けるのに拒否する自分をぶってくるお母さんを見て、そうだと気がつく育児者がいれば好ましい。
これも１００％とは言わないが、あかちゃんをリスペクトできる育児者は少ない。
一般的には、あかちゃんのことを、大人の未熟な人間と捉えているだろう。
そもそもあかちゃんをリスペクトするなどあり得ない。
そんな育児者のフツウを覆すような育児者に出会わないと、生れた時から持っている自己学習能力を削がないで大きくなることなどできない。
もっとわかりやすく言うと、あかちゃんを拒否しない育児者と出会うかどうかである。
こう書きながら、まず難しいと思いながら書いている。

それでも諦めてはいけない。
１人でも、自分とは違う人間であることを認識して、あかちゃんをリスペクトする育児者が現れるように、諦めないで話す必要がある。
あかちゃんの自己学習能力を削ぐことは、あかちゃんを拒否するからだと、書き続けないといけない。

あかちゃん時期だけではない育つ自己学習のチカラ

一般的には、生れるときから、どんなことでも最初のことだから、自分で学習するように仕向けられている。そうじゃないと生き残れない。
自己学習のチカラが、あかちゃんの時だけかというと、そうでもないようだ。
私の場合は、ほとんどが自己学習だったように思える。
学校では、何を学習したら好ましいかのインデックスを解説してくれればいいのだろう。
学校で教え育もうとする意図が権力者にはあったのだが、実際にはそうはいかなかった。
今でも、権力者の思うようには学校はできていない。
もうムリである。
学校から帰るとテレビから様々な情報が入ってくる。
権力者の意図したことは、自分の意図したこと以外の情報をシャットアウトすることだ。
そして自分の意図したことだけを教育することだ。教え育むことだ。
秀吉の時代はみんなこうだった。
２０２１年では、世界でもほんの少しの国で行われているだけだ。
権力者のいない国家の学校では、たとえば、人間としてあるべき人になるように教育が行われることが多いのだが、それでも、その国家に独特のあるべき人のようなものがあって、学校教育のコンセプトなどが決まっている。
私の基本的な考えでは、権力者による意図された教育ではない場合は、自己学習のチカラをつけることに重きをおくことが望ましいと思う。

特に最近では、インターネットの普及によって、自分で学習したければ可能な時代になっているからだ。
一方で、図書館などの普及によって、自分で学習したいときには自由に学習できる環境が整ってきている。
学校で全てを獲得するよりも、自己学習のチカラを学校でつけておくことの方が柔軟に学習する力を鍛えることができる。
あかちゃんの時は、生き残らないといけないから、無条件で自己学習能力が備わっているのだが、大きくなったら、無条件というわけにはいかないので、自分の技として、自己学習を行うチカラを得ていくことが好ましい。
学校に毎日行けばそれでいいというわけにはいかない。
自己学習のチカラがアップすると、それはそれで楽しいものだ。
おもしろければ、なんでも上達する。

自己学習のチカラが削がれるとどうなるか

偏差値競争

私は77歳だからほぼ偏差値を知らない。
少ない私の経験によると、テストで高得点を取る技のように、今でも感じている。
私は、それはそれでおもしろかったので、結構頑張った。
しかし、それが私に何をもたらしたかというと、ほぼゼロである。
学年のランキングが学校の廊下に張り出されて、ガンガン上がっていく自分の順番に、喜びを感じたものだ。
スポーツに似ている。
私は並行してスポーツにも同じようなおもしろさを感じていたので、これは似ていると思ったものだ。
試合があって、ベスト４の常連とかになると、それなりの貫禄もついてきたりする。
学校の廊下の学業のランキングも、11クラスもあったのだが、全体で10位以内の常連になると、スポーツの貫禄のようなものが出てくる。
アイツは学力がすごいになる。
実はそういうことではなくて、正解を導く技を知っているだけだ。
学力と言えば学力なのだが、それだけでクリエイティブな人だとは言えない。
私は、偏差値競争というのは、誰かの勘違いで始まったものだと思っている。
人口が拡大してすべての人に好条件を与えることができないので、順序をつけようとしたものだ。
ただそれだけのことなのに、やってみると、ただの順序づけのシステムなのに、人格までもが優れているかのように日本のみんなが勘違いした。
それが今も続いている。
２０１８年頃から２０２１年、国家公務員の人格不良な出来事が目立ってい

る。
今日も、コロナの元締めだとみんなに思われている厚生労働省の23人が、０時近くまでご苦労さん会と送別会をやっていたのだそうだ。
コロナ禍である。23人も０時近くまで宴会をしている集団などいない。
もし会社だったら株価が下がる。
もし学校職員だったら受験する人が少なくなる。
もし官僚だったら政権の支持率が落ちる。
どうしてこんなわかりやすいことをあえてやったのだろうか。
とても人格者の集まりには見えない。この人たちは偏差値が高いのだ。
少し前には、総務省官僚だった。その前は財務省だった。
確かに偏差値は、序列をつけることでは、うまいシステムなのだが、立派な人間であるという序列ではないことにもっと気がつかないといけない。
２０２１年日本では、政治界も企業会も学業会もすべて、偏差値を参考にする。
確かに競争を勝ち残るスキルは鍛えられているのだが、あたらしく何かを発想することでは、ほぼ共通してダメである。
発想することは、おもしろいことを追うことなので、そんな時間があったら勉強するというか、偏差値を上げる技に時間を割いてしまう。
例えば経済は、再生産と消費なのだが、日本では、どうすれば経済を活性できるか、誰も処方できないでいる。
それは例外なく、新しい生活のシナリオライターである商品を開発して世に出すことしかない。
例えば、現時点ではスマホが典型で、スマホを開発した人が存在していた会社が世界１の会社になるし、その会社が存在するアメリカが国家として世界１の経済大国になる。
スマホを開発したサンフランシスコの田舎風のおじさんは、亡くなったが、偏差値の話しを聞いたら、バカバカしいと言っただろう。
人間が共通して根に持っているものは、おもしろいであり、クリエイティブである。
偏差値重視の社会では、人を選択することでは好都合になっているのだが、人は船長に適切に育ってしまう。

競争に強くミスが少なく目標達成意欲が高くだ。
そんな人ばかりが、ここのところ20年くらい、日本という船を動かしているのだ。
そういうことではない。
日本というこれから未来の船をどうやって作るのかが課題である。
それは、できないだろう。
偏差値競争は、自己学習のチカラが減退してもあまり関係はない。
過去の偏差値向上の技を教えてもらえばいいのだから。

生活や生きる工夫の欠如

今日は４月29日である。コロナの緊急事態宣言である。
私はテレビでしか情報が入ってこない。いずれの局もコロナは手厚く報道しているので大事なことの抜けはないだろう。
オリンピックの開会式が３か月後である。
インドなどは選手を東京に派遣することはできないだろう。
このまま東京の感染者が拡大すれば、選手を派遣する国も、自国の世論に頭を悩ませることになる。
一方で、世界のワクチン接種が進んでいるのに、日本だけが依然としてワクチン接種が進んでいない。理由はいろいろあるらしいのだが、わけがわからない。
ワクチン接種者の中心である看護師に対して、オリンピック開催中に５００名の派遣を要請したのだそうだ。
私の私見だが、なんと工夫しない国なのだろうと思ってしまうのだ。
コロナの切り札は、ワクチンと１万床のコロナ専用プレハブ病院である。
わたしもガンの経過観察者だが、死者のことで言ったら、ガンなどの患者の治療をコロナの治療に置き換えていいわけがない。医師や看護師や治療機器や薬の手配もあるが、コロナ治療を別組織で行うことが切り札である。
この２つの切り札を日本は使っていないのだから、コロナが沈静に向かうはずがない。

私には、日本のコロナ対策が何をしているのか理解できないのだ。
工夫が何もないように思うのだ。
昨年２０２０年３月、政府からオフレがあった。
体温３７・５が４日続いたら保健所に電話しろ。65歳以上の高齢者は３７・５が２日続いたら電話しろ。
私は、お米を買いに行くときに、まずいとは思った。
マスクを忘れたのだ。甘く考えていた。
夜中に３７・１になった。ガンの治療中にもこのような体温はない。
しかし３７・５が連続である。終日ベッドにいて翌日朝３６・９だった。
私はコロナに感染したと確信したのだが、オフレに従った。
私は、このオフレのおかげで多くの高齢者が亡くなったと確信している。
このオフレは何を守ろうとしたのだろうか。
日本の秀でている医療体制に違いない。
先進諸外国と比べて日本の新規感染者や死者が少ないことを、専門家や政府は、日本の医療体制が優れていると言っていた。
そういうことではない。
アジアの国は経済成長よりも命を大事にする文化がある。西洋諸国の命も大事だが経済成長が大事だと言う文化というか風習をそのままやっているだけだ。
日本はアジアの国であるのだが、西洋諸国の考えと同じである。
命も大事だが経済成長も大事なのだ。
日本のみんなはアジアのみんなと同じだろう。経済成長より命が大事なのだ。
しかし、日本政府は、命も大事だが経済成長も大事なのだ。
医療体制が秀でているかもしれないが、それを３７・５が４日連続というオフレで守ることは、いかにも、上級日本人的である。
いわゆる、上意下達の上意の人なのだ。上意の人が下達の人に下達をしているのだ。
さっきもテレビを見ていたら、ワクチン大臣のような人が、日本のワクチン接種が世界で少ないことにふれ、欧米と交渉すると、日本の感染者が欧米諸国に比べて少なく死者も少ないことを聞かれるので、日本の医療体制が優れ

ていることを話すのだとテレビで言っていた。
この人は何も理解していないと思った。
この人が何も理解していないのであれば、ほとんどのコロナの政府関係者は、アジア諸国の、命を優先する風習を理解してないのだろう。
もう１万人も日本では死者がいるのだ。
ただ救いなのは、コロナか経済成長かオリンピックかの選択では、70%の日本の人が、オリンピックの開催に疑問を持っていて、ゴーツーイートなどにも多くの人が疑問を持っているので、私見であるが、日本のみんなはやはり、命を優先するアジアの人なのだと、私は確認している。
そしたら、あの人たちは何なのだ。
偏差値的思考の人たち、いわゆるエリートなのだ。
目標設定を必ずする人たちだ。
以前の技を勉強してコロナを分析するのだ。
そういうことではなくて、今のようにコロナは次々に変異することは、当然予想できるので、経済を止めてロックダウンをしてコロナを追い込まない限り、元のように、自由に生活することはできない。
そんなことは、何かを工夫したり創造する時の先のイメージであるのだが、ここが、全くなされていない。
日本のコロナ責任者層では、コロナについて、たかをくくっていたと思える。
日本においてコロナがどうなるか、２０２１年４月のような状況になることなどは、想像もできなかっただろう。
テレビでの専門家の発言に、個人的には、危ないと私は感じていた。もちろん私自身にも自信などない。
２０２１年の４月の状態をイメージすることなどできなかった。１年前だ。
専門家の皆さんは、一様に分析的なのだ。
創造的ではない。
私は、現在の日本の上層部の人たちは、みなさん、偏差値的思考の勝者なので、すべてが分析的思考になってしまう。
私が切り札と考えている、１万床のプレハブコロナ専用病院など、イメージできないと思う。分析的な思考からは出てこないからだ。私は自分がガンを

持っているので、専用の大病院を短期に作り上げるしか方法はないとすぐに思いつく。
現実には医師や看護師などのスタッフを手配できるかがポイントになるのだが。
昨年から１年日本のコロナ対策でやってきたことは、すべて対処だけだった。
２０２１年４月30日も、緊急事態宣言である。
先のイメージができないのだ。
大阪など医療体制が崩壊しているので死者が増えている。
大阪に１万床のコロナ専用病院がプレハブでもいいから今あれば、助かる。
でもやらないだろう。
私は、自己学習のチカラが衰えているように感じている。
偏差値教育の欠点だ。
偏差値教育の行き過ぎが自己学習のチカラを削いでしまう。
思考の方法には主として分析的な方法と創造的な方法がある。
分析的な思考でスマホを創造することなどできない。
今は亡くなったサンフランシスコの田舎風のおじさんは、偏差値の話しをしたら、多分、私にはムリだと言うだろう。
２０２１年の日本では、ほとんどすべての人が偏差値的思考分析的思考なので、スマホのようなすごい工夫は出そうもない。

そもそもなぜ自己学習のチカラを失うのか

私は教育という言葉が好きではないから使わない。
学習という言葉を使う。
自己学習のことだ。
人は、あかちゃんの時に持っていた自己学習のチカラを失ってしまう。
なぜか。
それは、私が好きではない教育があるからだ。
教え育むがあるからだ。

私もはまってしまったのだが、教科書というものがある。
ただの本の１冊に過ぎないのだが、私はそうは思わなかった。
特別なもので、それを暗記するかのようにしなければ、試験に出るのだ。
おかしな話しなのだが、教科書だけやっていれば勉強ができるこどもになれる。
私などそうだった。
大人になって、毎日１日１冊本を読むようになって読む本に苦労するようになった。
子どもの頃教科書をホントは違う感覚で読んでいた自分をおかしく思ったものだ。
私だけのことを考えると、私の自己学習のチカラは、このような教え育むことで消えてしまったと考えられる。
もしそうではないとのお考えがあれば、それはそれでかまわない。
私の自己学習能力が失われてどうなったか。
私は、しばらく、自信喪失になった。
教科書と教え育まれるシステムを探したからだ。
数年かかった。
そして、私は、ゼロからはじめたのだと思う。
１日１冊本を読みはじめた。
言語学や哲学の書物は、新しい書物が少ないので、本屋で探しても読む展開に困るようになる。
私は、どうしてこのようなことを教え育まないか不思議である。
教え育むことの真の狙いは、教え育みたいことを子どもたちに教え育むことだからだ。
秀吉でもどんな権力者もが実行したことだ。
日本にはもう権力者はいないのだが、その名残は歴然としてある。
私はいつ脱出したのかよくわからない。
しかし、完全に教え育むから脱出した。
私の人生は私の人生である。
教科書には、誰かの意図が入っているのだから、できるだけ早く脱出しないといけない。

私はガンになったりしてタイヘンな人生なのだが、77歳で、完全に自分の人生を掴んだと思う。
その証は、自己学習のチカラの再生である。
あかちゃんの時に持っていたのに失ってしまって、そして再生させたものだ。

情報は追うものか来るものか

77歳の今のわたしの中からは完全に消えたのだが、教科書以来、情報は与えられるものという基本的な考えを脱皮できない。
私はいつ脱皮したのだろう。
毎日１冊本を読む決心をしてからではないかと思う。
当時は、読むことは読むのだが、書架に並べて自己満足に陥っていたほどよろいがあった。
いつか読んだ本は誰かに受け取ってもらうようになった。
自分の文章を数多く書くようになって、本を読むことはなくなった。
時間がないのだ。
私は、今は完全に情報を追っている。
私がこのようになったのは、研究ができるようになったからかもしれない。
私にとっては、研究は、すごく興味ある行動になった。
１つのわからないことを明らかにすると、その向こうのわからないことを明らかにしたくなる。
次々にわからないことが現れて、それを追うことが興味の的になってしまう。
こうなると、情報は与えられるものと考えることは全くなくなる。
私の場合は、このように情報は追うものになっているのだが、今回のコロナで明らかになったように、体温３７・５が４日続いたら電話に現れているように、日本のエスタブリッシュメントの人たちは、依然として、情報は上意から下達に伝わることが、大昔から決まっている。２０２１年になっても。
私は、すぐに反応する。

情報は与えられるものではない。
どうなのだろうか。
日本のみんなの中で、情報は追うものだと考えている人がどのくらいいるのだろうか。

人生は与えられるものから脱する

あかちゃんには自己学習のチカラが備わっているのだが、大人になると、自己学習のチカラを失う人もいる。
誰も人生は与えられるものとは思っていないのだが、事実上、教え育むカリキュラムが長く続くので、その流れを受け継いでしまう。
時々将棋の天才のような人が、与えられる人生に反抗するかのように頑張るのだが、どちらかというと数は少ないのだろう。
将棋の天才などは、自分の人生を与えられた人生とは思っていないだろう。
私の経験では、大学や大学院で学習しても、与えられた人生を崩せない人が多い。
昔マネージャーをさせていただいた会社の私と一緒に働いた社員との葛藤が、ほとんどここに該当していた。
自分が学校で得たスキルは次のようなものだから、あなたの言うことには従えない。
こう言われるのだ。
みんなずっと与えられ続けてきた人生を脱せないのだ。
私はそれを壊そうとする。
彼らはそれを守ろうとする。
私は、新入社員の例外がないほどに、凝り固まった考えに、すごく苦労した。
あれから30年くらい経過しているのだが、更に凝り固まっているのだろう。
私がおかしいのではないかと常に自分に問いかけていた。
実社会では、特にサラリーマンになってしまうと、会社のニーズに従って、自分のチカラを発揮しないといけない。

そんなことは当然のことだ。
もし、それがイヤだったら、誰かに雇われるのではなくて、自分で起業することが望ましい。
最近は、大学生でありながら、すでに起業をして経営者になっている若者も結構な数いる。
こういう人は、たとえ失敗しても素晴らしい。
サラリーマンになったということは、雇われてしまったので、雇った側のニーズに従わないといけない。
それが社会の法則である。
日本の場合は厳しいしシンドイ。

地球のピンチから脱出を提示した人

世界の温度上昇が続いているのだが、一方で、化石燃料使用制限が世界的に進んでいる。
私だけではなくて、この２つの情報が繋がらない。
これらのことをつなげた人が２０２１年のノーベル賞を受賞した。
このことは素晴らしいと思ってしまう。
多分、多くの情報があって学んだだけで化石燃料使用と地球の温度上昇を導き出せたわけではない。
自己学習のチカラのすごい人だったのだと思う。
そして学習してわからないことを研究したに違いない。
私も研究者のはしくれだからすごく理解できる。
２０２１年の日本では、勉強して問いの答えを出せば偏差値が高くなるので、そこから先に行く人が少ない。
化石燃料使用を制限しないといけないというところまでに進む人が日本では少なくなっている。
そういう意味では、自己学習者のお手本になる人だと私は思う。
今後アメリカではこのような自己学習者のお手本のような人が頻繁に現れるだろうが、日本では難しいと思う。

最近、時々、ピッチャーとバッターを両方やろうとしたらどうしたいい、誰かに教われのではなくて、自分で学習する人が日本では現れている。
将棋の世界でも、自己学習者のお手本のような人が現れている。
２人とも若い。
彼らは、偏差値のようなこととはまるで無縁な人だ。
問いがあって、勉強して答えを出せば偏差値が上がるようなことに無縁である。
このような人が若くして現れることは好ましいことだ。
しかし、彼らは、動く歩道から降りた勇気のある人なのだ。
動く歩道は、日本社会が日本に生まれた人は、このように勉強して過ごすことが求められると考えて、動く歩道として敷いているものだ。
幼稚園があって小学校があって中学校があって高等学校があって大学がある。
それぞれ、節目で歩道に乗り換えができるようにはなっているが、動く歩道は歩道である。
深く考えることなく、動く歩道に乗っていると、日本人として好ましい人になるように、動く歩道はできている。
ピッチャーをやりながらホームラン大量に打ちたいといった、そんな動く歩道などない。
だから彼は若くして一般的な動く歩道から降りて、自己学習による自らの道へ進んだのだ。

動く歩道

動く歩道はどの国の社会においても、幼い頃から、権力者や為政者の希望の通りの社会人になるように、小学以前から大学に至るまで、継続してカリキュラムが用意されていて、それはあたかも、動く歩道のようになっている。
日本の誰でもが、迷いなくこの動く歩道に乗る。
時々将棋の天才のような人が現れて、動く歩道から自ら降りてしまう。

将棋ばかりして勉強はいつやっているんでしょうねと多くのお母さんたちは当初思っただろう。
それほどに、動く歩道は誰もが降りてはいけないと考えている。
日本の常識なのだ。
日本は動く歩道が整備された国である。
多くの日本の若者は、あまり先のことを考えずに、動く歩道に乗っている。
そして、偏差値もその中に組み込まれていて、偏差値が高ければ、あまり先のことを考えなくても、日本人として、社会生活ができるようになる。
多くの人が動く歩道から落ちこぼれる。
動く歩道のコンセプトには、高学歴都会集中国民グレードアップ総豊かがある。
そして他国よりも競争力のある社会にすることだ。
したがって、当然のことながら、落ちこぼれる人を救うことは二の次である。
日本社会が、次第に愛が薄くなる。
もともと集団には愛はないのだが、愛が薄くなる人が増えることで、日本社会の愛が薄くなる。
現在のところ、日本の風土は、動く歩道をキチンと最後まで乗り続ける人を大事にしている。
病弱であったりして動く歩道に乗れない人や、ついて行けなくて落ちこぼれる人を優先することはない。
どこかで逆転させることができるのかどうか、難しいところだ。
動く歩道そのもののコンセプトを変える必要があるのかもしれない。
その方向は、もっと多様性を拡大させるとか、弱者を大事にするカリキュラムであったりかもしれない。
今のままでは、江戸時代の侍の教え育むに似ていて、ヒエラルキーの上位の人を選抜していることになっている。
霞が関では、入社時にすでに上意の人であることが決まっている。
しかし、それも最近は、すでに上意の人と決まっている人なのに、極めて良くないことに手を出してしまう人が現れたりしている。
確かに、動く歩道のようなものがなかったならば、今よりももっと何をした

らいいのか迷う人が多いかもしれない。
自分の人生をデザインすることはそう簡単なことではない。
個人的な意見なのだが、動く歩道があるから自分の人生をデザインしない人も多いのではないかと、私は感じている。
自分の人生をデザインしないまま上意の人になっている人をテレビなどでは多く見かけたりする。
つまり、動く歩道の優等生が日本社会の上意の人になる手はずなのだ。
動く歩道の優等生が立派な人物であるかどうか。
なかなか難しい。
もう30年くらい、日本社会は沈み込んでいるので、このままでは、素晴らしい人材を待てないのではないかと心配している。

教育ではなくて学習だろう

言葉は人を呪縛する

言葉は人を呪縛する。
人が育つことを教育という言葉で表す限り、人は為政者の意向に沿って育てられてしまうと解釈される。
教え育むからだ。
誰が教え育むのかがポイントである。
中国や韓国や日本では、このことに疑問を持つ人は少ないだろう。
私見だが学習に変更することが好ましいと思う。
今でも、学習要綱などのように学習は使われているのだが、教育という言葉の中の１つとして使われているように思う。
例えば教科書表現をどうするかなど、国として決めないといけないとみんなが思っているからだ。
そのことそのものが、誰かの意向で教え育まれることを表現している。
それがなんだと言われる人が多いかもしれない。
私見だが、人は群れで生きるしかなくて、指導者が欠かせなくなって権力者になって、数えきれない戦争があって、２０２２年もウクライナが一方的に侵攻されているのだが、どこかで断ち切らないと、人が人と人が闘って滅んでしまう。
人は教育されて育つのではなく自分で学習して育つこともはっきりさせた方が好ましい。
すごい時間がこれからもかかってしまうのだろうが、焦らないで辛抱強く自分が育つことを追わないといけないのだろう。

ロシアの教育が垣間見えてくる

最近のロシアのウクライナ侵攻で、ロシアのなかでどうなっているのかみんな興味がある。

一方的な侵攻でしかも一般人も攻撃の対象にしているように見える。
世界の圧倒的な批判の中でロシアのみなさんはどうして疑問を持たないのだろう。
私は、ロシアはロシアでロシアの正義があって、その正義に従って教育やプロパガンダがなされていると承知している。
ただその正義が社会正義かどうかは、人間社会では、裁判という手続きを踏んだ結果でないと、正しいとか悪とか言えないと思っている。
もし大きな権力によって、その裁判さえも拒否してしまうようであれば、世界社会は大混乱に陥る。
第二次世界大戦時の日本やドイツにおいても、日本やドイツの正義があって、裁判が行われた。
そして、日本やドイツの正義は、日本やドイツ国内において、みんなに教育されていた。そしてプロパガンダも強力だった。
私は１９４４年生まれなので、先の戦争は私のオヤジの時代の戦争だったのだが、私は、少しは詳しくオヤジなどから聞いていた。
どのように教育されていたか聞いていた。
私が聞いていた範囲では、今のロシアでやられていることと同じある。
日本の正義を教育していたし今がロシアの正義を教育しているしプロパガンダをしている。
権力者のやることはほぼ同じであることがわかる。
自分の正義を教え育むのだ。
私自身は、第二次世界大戦時の教育が現在なされることがないので、あの正義は裁判においても、私自身の考えでも、誤りだったと理解している。
日本の大部分の人と同じだろう。
現在のロシアの人たちは、現在は、ロシアの教育とプロパガンダの中にあって、支持せざるを得ないか積極的に支持している人が多いのだろう。
10年後くらい先に、どう思うか興味深い。
私は、やはり教育という言葉は使わない。
日本の人たちは、教育という言葉に何も疑問を持たないのだが、教え育むというコンセプトは変わらない。
いつまた日本が、現在のロシアのようになってしまうかもしれない。

過去の日本にあったことだ。

人間として社会正義を自分で学習して生きていくことが極めて大事だと思う。

権力者の正義に惑わされてはいけないのだろう。

徴用も教育だった

私は父親とは異なる

日本で教育という言葉を否定したらうまく日本のガバナンスに適応できないだろう。
そう思いながら私がずっとそうなのだ。
べつに教育という言葉を否定しているわけではない。
好きではないから教育という言葉を使わないだけである。
なぜ好きではないか。
私の父親は、教え育むという日本の教育の考えの通り、戦争のための戦士として徴用された。
これを戦争は嫌いだからといって拒否することなどできない。
私の父親は勇んで戦場に向かっただろう。
そして右太ももを射抜かれて落馬して右小指人差し指中指を折ってしまって動かなくなった。
１９４３年のことだ。
私は、オレは甲種合格で優秀だったと言う父親の言葉を反論もせずに苦々しく聞いていた。
治療して帰還して結婚して私が生まれた。
私は父親から不満を聞いたことはない。
私は、当時は教育が行き届いていたのだろうと思う。
富国強兵である。
明治以来の日本のみんなの目指す事だった。
教え育むとはこういうことだ。
権力者か為政者の考えを教え育むことだ。
私の父親は、戦争が何のために行われているのかよくわからなかっただろう。
富国強兵だから自分もその一環になったか気にしたのかもしれない。
すごく悲しいことのように思える。

私は父親とは異なる。
紙切れ１枚で徴用されることなどゴメンである。
ただ、甲種か乙種か検査場に行かなかったら留置場かもしれない。
オレは親父とは異なると言って威張っていられないかもしれない。
私は１９４４年生まれだから、今からでは紙切れは来ないかもしれない。
ただ、２０２２年の日本では、紙切れを出せるような状況ではない。
徴用をするほどの戦争をすることは憲法で禁じられている。
しかし、ごく最近のロシアによるウクライナ侵攻が、ロシアによる北海道侵攻と被ってきて、日本の軍事力強化の方向が強化賛成の方向である。
やっかいなことをしてくれたと私などは思ってしまう。
そもそも日本には、富国強兵の教育や軍備増強の歴史がある。
そこに火がついたらまずい。
確かに私は父親とは異なるのだが、たかをくくっていたらいけないようだ。

権力者はいなくても教育はある

２０２２年になって、権力者がいなくなっているので、教育によって富国強兵はない。徴用はない。
しかし、日本の子どもたちと若者は、偏差値争いをしている。一部の偏差値向上会社のような会社もあって、日本社会の１つの方向ができている。これが日本の教育の実質的な目指すことになっている。
おかしなことに、権力者はいなくなったのに、教え育むことが存在している。
それは、富国強兵と根が大きく違わないことに驚いてしまう。
世界の中で大国を維持するためには、偏差値が高くなる教育が望まれると誰かが思っているのだろう。
根があまり違わない。
そういうことではなくて、人間の存在で大事なことは何なのか。日本の人々は何を大事にすればいいのか。
これは日本のみんな個々が考えることなのだが、そのように、自分で考える

ように仕向けることでもなく、決めてしまって教え育むことを促す事でも、富国強兵と大きく異なってはいない。
これはなんだろうか。
まず偏差値のようなことを編み出したことがすごい。
これで、「うちの息子や娘を頼む」を拒否できる。
これで、「鞭打たなくても」勝手に競う。
すごく頭の良い人が考え出したものだ。
しかし、残念なことに、具体的方法の所で、クリエイティブさを判断する試験の技を開発できなかった。
確かに船長の選抜では威力を発揮するのだが、経済は再生産と消費なので、新しい生活のシナリオライターであるヒット商品を創れるような人材が育たない。
このままでは、日本は、徐々に世界で大国を維持するのではなく、世界で大国から後退することになる。
権力者はいないのに、誰が、偏差値教育のようなことを位置づけたのだろうか。
同じようなことを韓国も中国もやっているので、東アジア独特の教育の方向なのだろう。
富国強兵の教育コンセプトのようなものを根にすることはできないので、競争によって１番を目指す方法を考えたのだろう。
しかし欠陥がある。
クリエイティブは試験や検査ができないことだ。
せっかく他者にはないクリエイティブな芽を持っていても、偏差値では発揮できない。
日本全国が偏差値に一喜一憂している現状は、以前の富国強兵に一喜一憂していたことと同じようなものだ。
権力者がいて、それを指示していることと大きく変わらない。
日本の多くの人は、誰かに指示されて偏差値に一喜一憂しているわけではない。
自分で選択しているのだ。
偏差値はよく考えられている。

競争は、人間の誰でもが持っている、おもしろい１つである。

偏差値で競争がなかったら誰も見向きもしないかもしれない。

いくら日本の指導者たちが偏差値を奨励しても、ゲームには敵わない。

ゲームもするが偏差値の競争にも参加する。

学習に到達できるか

国民のあるべき姿

教育は為政者や権力者が成り立たせたものだ。
私が教え育むこんなやり方が好きではない。
人は、自由に、自分で学習すべきことを発見して自己学習することが好ましいと思っている。
しかし、現実には、日本では、自由に自分の学習すべきことを探すことなどなくて、教育が敷いた動く歩道に踏み外さないように必死に取り組む。
私はアメリカに住んだことがないのでアメリカの教育がどうなっているのかわからない。
アメリカにも日本のような歩く歩道があるのかどうかわからない。
歩く歩道は、たとえ自分の歩く道がわからなくても、動いている歩道に乗っているだけで勝手に歩道が動いてくれるものだ。
日本では、幼稚園があって小学校があって中学校があって高校があって大学がある。
そして偏差値というものがある。
毎日明日どのように生きるかなど考えなくても、昨日のように今日も生きれば、動く報道が少しずつ角度を挙げていく。
中国や韓国も同じような教育システムだと思える。
ロシアなどはどうなのだろうか。
私はよくわからない。
日本などでは、ずっと権力者が存在していたわけで、当然のこと、権力者が望む人づくりが動く歩道のコンセプトになる。
中国や韓国や北朝鮮やロシアなど、みんな同じである。
アメリカは少し違っている。
動く歩道があることはあるのだが、動く歩道は下部におかれている。
大人になってどのようなチカラを得ているか検索されて抜擢される。
日本は育成の成果だしアメリカは抜擢の世界である。

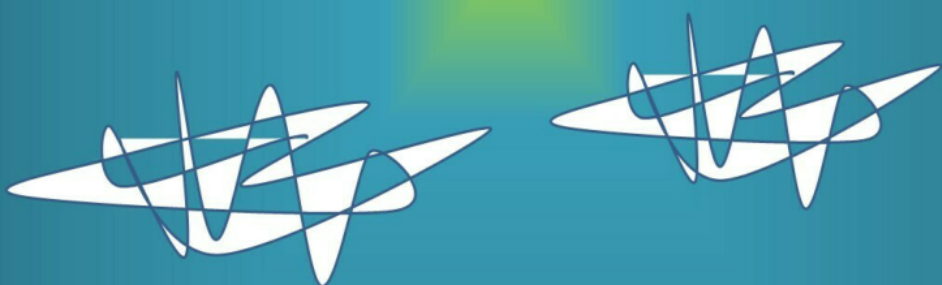
日本も自分の生き方を追う方向へ変わりつつある

２０２２年７月８日前首相が凶弾に倒れた。
政治的に大きな影響があった方なので、今度の日本社会にどんな変化を及ぼすのか定かではない。
その後に起こっていることは、もしかしたら、日本の政治社会だけではなくて日本社会全体に、大きな影響を与えるかもしれない。
日本社会だけではないかもしれないのだが、日本社会では、為政者からの教え育むが、定例になっている。
当然のことながら、為政者は、富国強兵のような自分のやりたいことをみんなに教育しようとする。
いいとかワルイとかではなくて、為政者は誰でもそうする。
日本のみんなは、権力者為政者の時代がずっと続いたので、権力者に追従の姿勢が強い。追従のエクスタシーをみんなが持ち合わせている。
しかし、社会がみんなの社会に移行するためには、みんなが自分の考えで自分の生き方で暮らす方向に変化しないといけない。
１９４５年に、これからはあなたたちが日本の主権者だと言われたとき、何が何やらよくわからなかった。
それから70年も経過しているのだが、なかなか追従姿勢が薄くならない。
だれか強力な為政者の登場を待っている雰囲気もある。
日本では民主主義国家として着々として、みんなが主権者の国家形成を続けているのだが、いまだ自分が主権者であることに慣れてはいない。
まだ１００年や２００年はかかるのではないかと思う。
日本では権力者の時代がながかったために、教育という思考が完全に定着してしまった。
これを私の言う学習に変革していくのに、１００年やそこいらかかるのではと思う。
教育という言葉を死語にするほどの変革がないと、日本のみんなの追従姿勢は薄くならないだろう。

日本の誰かが考える日本人としてあるべき姿よりも、自分自身の人間として
いかに生きるかを考えることが大事だろう。
デジタルの進歩で、自分で学習する環境は整っている。

『学習』

２０２２年

げんじあきら

学習
げんじあきら

学習

著者　　　げんじあきら
＊本書は（株）ボイジャーのRomancerで作成されました。